



2025年2月12日

日本鉄道労働組合連合会

JR 西労組第43回中央委員会

「**基準昇給完全実施**」「**ベースアップ 15,000 円**」「**年間臨給5.7ヵ月**」等
を求める**2025 春季生活闘争方針と当面の活動方針を決定!**

JR 西労組は2月5日、大阪市内で第43回中央委員会を開催し、2025 春季生活闘争方針をはじめとする当面の活動方針を満場一致で決定した。中央委員会には来賓として、本年7月に予定されている参議院選挙へ出馬予定の浜野喜史議員や交運共済の本田雅明専務理事、JR 連合からは石川敏也産業政策局長が参加した。

執行部を代表して挨拶に立った上村良成中央執行委員長（JR 連合副会長）は、「安全の確立の取り組み」「2025 春季生活闘争」「組織課題」「男女平等参画」の主要課題4点について所信を表明。「福知山線列車事故から20年を迎える。二度と悲劇を繰り返さないためにも、安全のABC運動などの取り組みに注力しよう」と訴えるとともに、「2025 春闘は他産業との格差是正のためにも正念場。JR 連合方針に基づき、要求も可能な限りの上積みを図り、JR 連合傘下の最大単組、JR 西日本連合の中心単組として今春闘を牽引すべく取り組む」と決意を述べ、建設的で将来に繋がる討議を要請した。加えて、大阪万博の安全・安定輸送完遂や広島の新駅ビル「ミナモア」開業を材料にコロナ禍からの反転攻勢に勢いをつける1年にしようと呼びかけた。



上村中央執行委員長



浜野参議院議員

JR 連合から参加した石川産業政策局長は、安全確立や2025 春季生活闘争、組織課題、政治・政策の取り組みについて言及。「2025 春闘を通じて労働組合の意義を認識させ、組織の拡大・強化を図ることが肝要。ONE TEAMで勝利を目指し産業の人財確保・定着につなげよう」と呼びかけた。また、財政制度等審議会における整備新幹線の議論に触れ、北陸新幹線の整備を後押しするためにも将来に向けた議論が必要として、四国新幹線の早期実現を求める署名活動への協力を要請した。

議事では、執行部から「年度初における基準昇給の完全実施」「ベースアップ 15,000 円」「年間臨給 5.7 ヵ月」などを柱とした2025 春季生活闘争方針をはじめとする当面の活動方針（案）が提起された。これに対して14名の中央委員が発言し、「安全の確立」「2025 春季生活闘争」「業務課題」「組織課題」「政治・政策への取り組み」など、多岐にわたる意見が示された。

その後、執行部からの中間答弁、羽野敦之書記長（JR 連合執行委員）の総括答弁を経て、全ての議案が満場一致で採択された。

JR 連合は、2025 春季生活闘争にかかる情報の提供・共有等の側面支援を行うとともに、政治や行政と向き合って賃上げができる基盤整備に取り組み、加盟単組とONE TEAMでもっと賃上げ・生活改善に向けて取り組んでいく。

